



一般社団法人日本環境教育学会  
第 34 回年次大会（鳥取）

大会テーマ：おりてくるもの・つむぐもの

研究発表要旨集

## 目次

1. 大会実行委員長挨拶.....	1
2. 開催概要.....	2
3. 大会日程.....	2
4. 会場について.....	4
5. 参加者のみなさまへ.....	9
6. 口頭発表について.....	10
7. ポスター発表について.....	12
8. 自主課題研究発表について.....	12
9. 大会参加者向け企画.....	13
10. 一般公開企画.....	16
11. 研究発表プログラム.....	18
12. 研究発表（口頭・オンライン）要旨 第2日目：8月26日（土）.....	30
13. 研究発表（口頭・対面）要旨 第2日目：8月26日（土）.....	45
14. 研究発表（口頭・対面）要旨 第3日目：8月27日（日）.....	91
15. ポスター発表 要旨 第2日目：8月26日（土）第3日目・8月27日（日）.....	124
16. 自主課題研究発表 要旨 第3日目：8月27日（日）.....	150
17. 研究会 要旨 第3日目：8月27日（日）.....	154

[大会実行委員会名簿]

実行委員長	: 大谷 直史 (鳥取大学)
副委員長	: 田村 和之 (鳴門教育大学)
事務局長	: 石山 雄貴 (鳥取大学)
本部事務局長	: 田開 寛太郎 (松本大学)
会 計	: 斉藤 雅洋 (高知大学)
大会プログラム	: 大谷 直史 (鳥取大学) 石山 雄貴 (鳥取大学) 田開 寛太郎 (松本大学)
企画	: 西村 仁志 (広島修道大学)
広報・メッセ	: 小林 修 (愛媛大学) 大谷 直史 (鳥取大学)
国際交流	: 田村 和之 (鳴門教育大学)
公開シンポジウム	: 井勝 久喜 (吉備国際大学) 今村 主税 (山口県立大学)
エクスカージョン	: 林 美帆 (みずしま財団) 石山 雄貴 (鳥取大学)

## 1. 大会実行委員長挨拶

第34回年次大会（東京）実行委員長  
大谷 直史

一般社団法人日本環境教育学会第34回年次大会（鳥取）へのご参加、誠にありがとうございます。本大会は鳥取大学を主会場とし、中国・四国支部でお引き受けすることとなりました。大会実行委員会名簿を見ていただければ、例年になく広がりを感じていただけることかと存じます。エクスカージョンも鳥取砂丘（山陰海岸国立公園）散策と水島コンビナートクルーズをご用意いたしました。鳥取大学は「知と実践の融合」を基本理念としており、乾燥地研究センターを始め地域の環境問題の解決に貢献することを目指して教育・研究活動に力を入れてきました。この年次大会の開催が大学の環境教育への取り組みをより強化し、持続可能な未来への貢献を深めるきっかけとなることを願っています。

また本大会は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行して初めての開催となります。このパンデミックは少なくとも一時的には経済活動の停滞をもたらし、環境への人間活動のインパクトを減少させましたが、環境教育の観点からはどのような評価が可能でしょうか。東日本大震災と原発事故、毎年のように報告される自然災害は、わたしたち人間の自然との関係性を根本的に再考する機会を提供してくれているはずですが、その教訓は活かされてきたのでしょうか。人類として環境に対してどのような態度をとるべきなのかが問われている現局面、本大会において持続可能な社会の創出に向けて日頃の研究活動を議論いただければ幸いです。

2007年の第18回大会が鳥取環境大学で開かれて以来、2度目の鳥取開催ということになります。当時は5月の開催でしたが、今回は8月で暑さがまだ厳しい模様です。体調に十分にお気をつけ頂き、鳥取でお会いできることを楽しみにしています。

## 2. 開催概要

- 期 間：2023年8月25日(金)～8月28日(月)
- 会 場：鳥取大学鳥取キャンパス・オンライン (Zoom)  
鳥取砂丘ビジターセンター (25日・エクスカーショ会场)  
鳥取県生涯学習センターふれあい会館 (25日)  
倉敷市環境学習センター (エクスカーショ会场)
- 主 催：一般社団法人日本環境教育学会 (第34回年次大会実行委員会)
- 後 援：鳥取県教育委員会、鳥取市教育委員会、EPOちゅうごく、中国地域ESD活動支援センター、  
とっとりコンベンションビューロー、環境省、国土交通省、農林水産省、文部科学省
- 一般社団法人日本環境教育学会第34回年次大会ウェブサイト  
<https://www.jsfee.jp/members/meeting/113/576>

## 3. 大会日程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
8月25日 @ビジターセンター・ ふれあい会館								社員総会 (鳥取砂丘ビジターセンター)			学会企画 (鳥取県生涯学習センターふれあい会館)		
8月26日@鳥取大学	大会受付	口頭発表 口頭発表(オンライン) ポスター発表(12:00-13:00コアタイム)	昼休み	学会企画				公開シンポジウム		会員懇談会		懇親会	
		環境教育メッセ											
8月27日@鳥取大学	大会受付	口頭発表	昼休み	常設研究会				自主課題研究					
		奨励賞審査		国際共同研究会									
		英語報告部会	国際交流										
		ポスター発表											
	環境教育メッセ												

※学会企画(8月26日)、公開シンポジウム、環境教育メッセは、大会参加費をお支払いいただいた方以外の方も参加可能です。

### <大会詳細>

8月25日(金) @鳥取砂丘ビジターセンター・鳥取県生涯学習センターふれあい会館

- 社員総会 = 15:00～16:30 (鳥取砂丘ビジターセンター)
- 学会企画 = 18:00～20:00 (鳥取県生涯学習センターふれあい会館)

8月26日(土) @鳥取大学鳥取キャンパス (口頭発表は一部オンライン)

- 受付開始時間 = 8:00 (共通教育棟 2F)
- 口頭発表(対面・オンライン) = 9:00～12:00
- ポスター発表 = 9:00～15:00 (コアタイム 12:00～13:00)
- 学会企画 = 13:30～15:00
- 公開シンポジウム = 15:15～17:45 / 参加無料

シンポジウムテーマ「おりてくるもの・つむぐもの」

登壇者：渡邊格・麻里子(タルマーリー) <https://www.talmary.com/about-us>

林美帆(みずしま財団) <https://mizushima-f.or.jp/>

コーディネーター：大谷直史(大会実行委員長・鳥取大学)

会員懇談会 = 17:50~18:50

懇親会 = 19:00~21:00

環境教育メッセ = 9:00~18:30

8月27日(日) @鳥取大学 (英語報告部会・国際交流は一部オンライン)

受付開始時間 8:00 (共通教育棟 2F)

口頭発表 = 9:00~11:00

奨励賞審査 = 9:00~12:00

英語報告部会 = 9:00~11:00

ポスター発表 = 9:00~12:30

国際交流 = 11:00~12:30

国際共同研究会 = 12:30~14:30

常設研究会 = 12:30~14:30

自主課題研究 = 14:40~16:10

環境教育メッセ = 9:00~14:40

エクスカージョン

8月25日(金)

鳥取砂丘散策ツアー@鳥取市鳥取砂丘

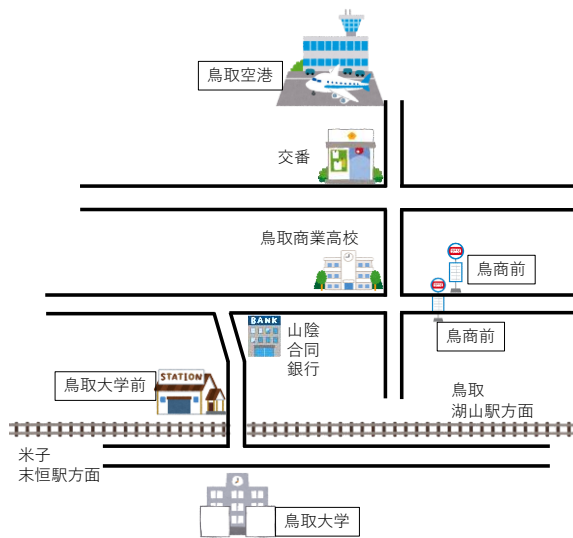
8月28日(月)

環境問題と産業の変化を学ぶ(水島コンビナートクルーズ) @倉敷市環境学習センター等

## 4. 会場について

<鳥取大学 鳥取キャンパスへのアクセス>

所在地：〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101



○鳥取駅からのアクセス

・JR 利用

鳥取駅から山陰本線 鳥取大学前駅下車  
徒歩 3 分

・バス利用(日ノ丸バス)

鳥取駅バスターミナル乗車

鳥大線 「鳥大」下車すぐ

湖岸線、鹿野線 「鳥商前」下車 徒歩 5 分

・タクシー利用 鳥取駅から約 15 分

○鳥取砂丘コナン空港からのアクセス

タクシーで約 5 分

徒歩で約 20 分

<鳥取大学鳥取キャンパス 校内図>



### <鳥取砂丘ビジターセンターまでのアクセス>

所在地：〒689-0105 鳥取県鳥取市福部町湯山 2164-971

最寄りのバス停：「砂丘会館」または「砂丘東口」

バスでお越しの方（鳥取駅から約20分）：

鳥取駅バスターミナルより、「岩美・岩井線」または「砂丘線」にご乗車ください。



### <鳥取県生涯学習センターふれあい会館までのアクセス>

所在地：〒680-0846 鳥取県鳥取市扇町 21

J R鳥取駅南口より徒歩3分





<発表会場（8月26日～27日）>

鳥取大学鳥取キャンパス共通教育棟

使用会場

共通教育棟（棟内は迷いやすいので注意してください）

C21 講義室 A会場

D21 講義室 B会場 英語報告部会 国際交流 国際共同研究会 自主課題研究①

C31 講義室 C会場 研究会①

C32 講義室 D会場 奨励賞審査 研究会② 自主課題研究②

D31 講義室 E会場 研究会③

D42 講義室 オンライン参加用教室（26日のみ）

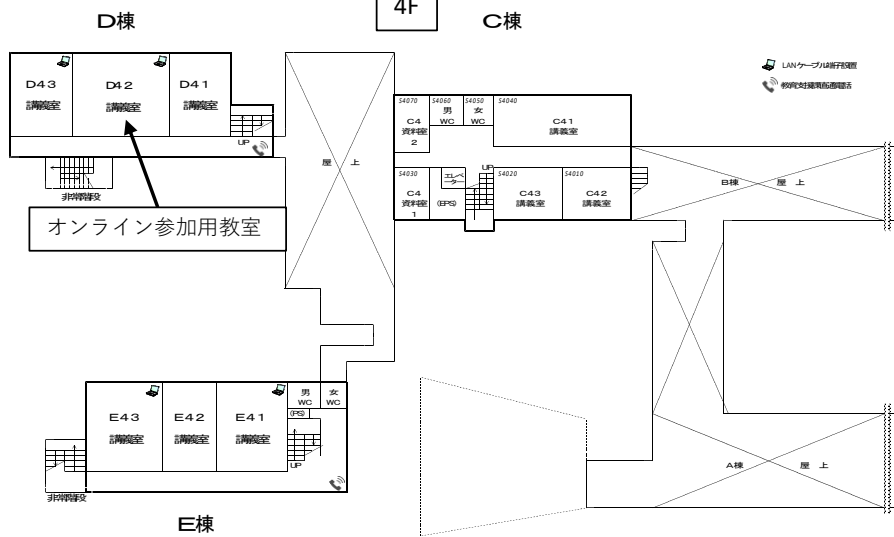
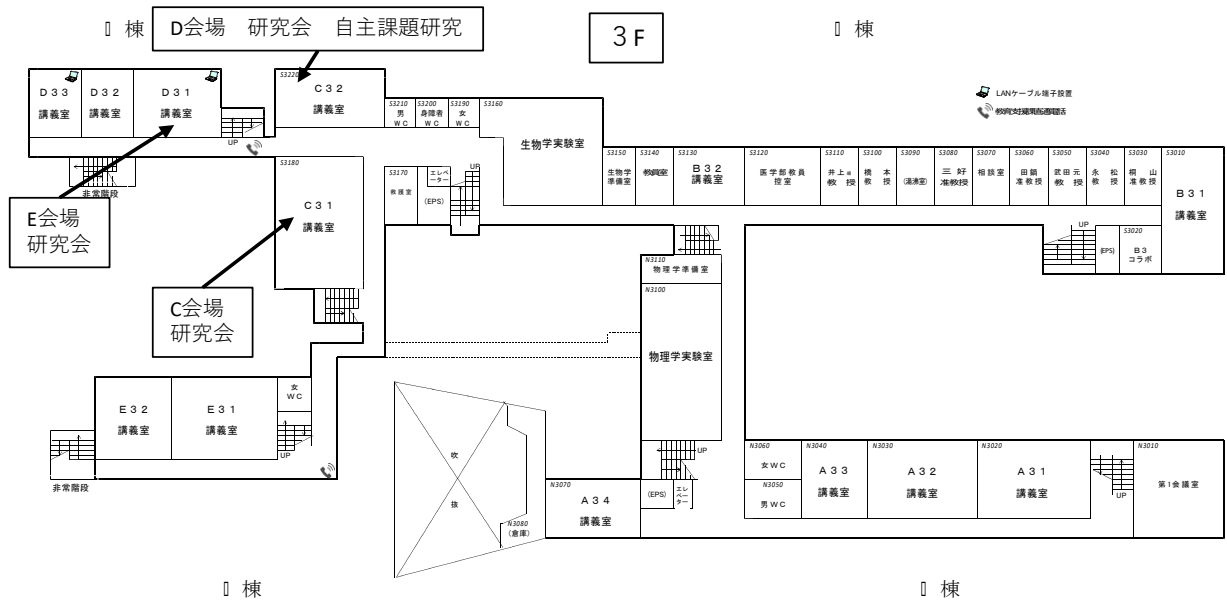
スタディルーム1 ポスター会場①

スタディルーム2 ポスター会場②

D22 講義室 ポスター会場③ 自主課題研究③

A20 講義室 学会企画 公開シンポジウム 会員懇談会





## 5. 参加者のみなさまへ

### オンライン参加

- ・口頭発表（オンライン）ではオンライン会議システム ZOOM を使用します。ご自身のパソコン、タブレット、スマートフォンからインターネットに接続いただきご参加ください。
- ・パソコンの操作、インターネット接続、映像・音声等については事前にご自身でご確認ください。（右記のリンク先でログインテストができます：<https://zoom.us/test>）
- ・オンライン参加にかかる通信料等、別途発生する費用については各自でご負担ください。
- ・ミーティングルームはセッションごとにミーティング ID が割り振られます。参加者に直接送付されるミーティング ID とパスコードを確認し、入力してください。
- ・ミーティングルームに入室する際は、ZOOM 上で表示される名前を「氏名（ご所属）」と設定してください。
- ・会場で口頭発表(オンライン)を聞くための部屋を確保します (D42 講義室)。会場で口頭発表(オンライン)を聞く場合は、その部屋に PC、イヤホン等を持ち込んでいただき、各自ネットに繋げてご参加ください。トラブルを避けるため、その部屋からの口頭発表(オンライン)のご発表はご遠慮ください。
- ・オンラインでの参加を希望される方は、実行委員会が定める発表方法、及び聴講方法にしたがってください。オンライン大会での発表に際してトラブル等が生じても、日本環境教育学会はその責任を負いません。
- ・発表中の映像・音声・テキストログ等を発表者に無断で録画・録音・スクリーンショットしないでください。また、SNS への投稿等による第三者へ開示は禁止とします。
- ・チャット機能の使用および発表中の質問については、各セッションの座長の指示に従ってください。
- ・接続数に限りがあるため、複数のデバイスを使っての同時接続はしないでください。
- ・円滑な進行を妨げる行為があった場合、座長、サポートスタッフの判断で、参加者のマイクやカメラ、画面共有などを強制的に off にする場合があります。ご了承ください。

### 対面参加

#### ●全般について

- ・大会受付は 8 月 26 日（土）～27 日（日）、鳥取大学鳥取キャンパスの共通教育棟 2F に設置いたします。参加者は必ずここで受付をしてください。
- ・大会受付にて参加表（名札）をお渡しいたします。会場内では必ず身に付けてください。
- ・大会開催期間中は、会場以外の建物および教室に出入りすることはできません。
- ・会場内は全面禁煙です。喫煙スペースはございませんので、予めご了承ください。

#### ●会場での wifi 利用について

- ・当日の会場受付時に、学内 Wi-Fi 接続のためのゲスト用無線 LAN アカウント ID・パスワードをお渡しする予定です。また、eduroam の使用も可能です。eduroam についてはこちらのサイト (<https://www.eduroam.jp/>) をご参照ください。

#### ●ご宿泊について

- ・宿泊先は各自でお手配ください。実行委員会では予約、あっせん等の手配はいたしません。お早めの宿泊場所をお願いいたします。

#### ●お食事について

- ・お昼休みは鳥取大学の食堂（大学会館内）を利用できます。
- ・休憩室の準備はありません。休憩する場合は、食堂がある大学会館内のテーブルや共通教育棟 2 FA20 講義室前ホール等をご利用ください。
- ・ゴミは各自でお持ち帰りください。

#### ●その他

- ・クロークはございません。貴重品等は各自が携帯してください。

## 6. 口頭発表について

### オンライン発表

#### （事前準備）

- ・セッションごとに ZOOM のミーティング ID が割り振られます。参加者に送付されるミーティング ID とパスワードを確認し、入力してください。
- ・ミーティングルームに入室する際は、ZOOM 上で表示される名前を「【発表者】氏名（ご所属）」の順に入力してください。例：【発表者】鳥取太郎（鳥取大学）
- ・接続速度が十分確保できる通信環境での接続を心がけてください。
- ・ヘッドセットあるいはマイク付きイヤホンをお持ちの場合は、それらの使用をお勧めします。
- ・下記リンク先にてログインテストが可能です。事前に音声等の確認をお願いいたします。

<https://zoom.us/test>

#### （発表者）

- ・口頭発表は ZOOM を用い、発表していただきます。
- ・発表者は自身のセッション開始時間の 5 分前までには必ずミーティングルームに入室してください。セッション入れ替えの間にカメラ・マイクのチェック、発表資料の画面共有等を確認してください。
- ・発表時間は 15 分（発表 12 分、質疑 3 分）で進行します。
- ・発表中の合図は以下の通りです。

第 1 鈴 10 分

第 2 鈴 12 分（発表時間終了です。直ちに発表を終了してください。）

第 3 鈴 15 分（質疑終了です。カメラとマイクをオフにしてください。）

- ・発表者は、それぞれのセッションの総合討論が終了するまでミーティングルームに待機してください。

#### （参加者）

- ・ミーティングルームに入室する際は、ZOOM 上で表示される名前を「氏名（所属）」の順に入力してください。

- ・発表を聴く際はカメラとマイクはオフにしてください。
- ・チャット機能の利用については座長の指示に従ってください。
- ・質疑応答を行う時は、リアクションボタン（手を挙げる）をクリックしてください。座長より指名された後、カメラとマイクをオンにして質問してください。
- ・円滑な運営にご協力ください。

(座長のみなさま)

- ・座長はセッション全体を担当していただきます。発表から総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。
- ・タイムキーパーは設置しません。お手数ですが時間管理もお願いします。
- ・セッションを開始する前に、チャット機能の利用の可否について明言してください。
- ・進行に際しては、くれぐれも時間厳守をお願いします。
- ・質問者には、はじめに氏名と所属を述べさせてください。
- ・討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮してください。

## 対面発表

(事前準備)

- ・発表は、発表者が PC・タブレットを持ち込んでください。会場での PC 貸出の準備はございません。プロジェクターの接続は、HDMI 端子を使用しますので、HDMI 端子を使用できる環境をご用意ください。
- ・PC の操作は発表者の責任で行ってください。
- ・念のため PowerPoint 等のスライドデータは、USB メモリに入れて当日ご持参ください。ご持参する USB メモリは、ご自身でウイルスチェックをお願いします。
- ・発表者はセッションの入替時間に接続確認を行ってください。

(発表者)

- ・発表者は 1 つ前の発表になりましたら会場の前の方の席に待機しててください。
- ・発表者ははじめに発表タイトルと発表者名を述べてください。
- ・口頭発表のスライドなどの撮影可否については、発表者がご自身で、発表前にその旨お伝えください。
- ・発表時間は 15 分（発表 12 分、質疑 3 分）で進行します。なお、奨励賞審査のみ発表 12 分、質疑 5 分を予定しています。
- ・発表中の合図は次の通りです。

第 1 鈴 10 分

第 2 鈴 12 分（発表時間終了です。直ちに発表を終了してください。）

第 3 鈴 15 分（質疑終了です。次の発表者と交代してください）

- ・発表者はそれぞれのセッションの総合討論が終了するまで、会場に待機してください。

(座長のみなさま)

- ・座長はセッション全体を担当していただきます。発表から総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。
- ・タイムキーパーは設置しません。お手数ですが時間管理もお願いします。
- ・進行に際しては、くれぐれも時間厳守をお願いします。
- ・質問者には、はじめに氏名と所属を述べさせてください。
- ・討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮してください。

## 7. ポスター発表について

(事前準備)

- ・発表者は26日(土)の9:00までに所定の位置にポスターを掲示してください。
- ・ポスターの展示スペースは、1件につきA0サイズ1枚です。  
(縦:1189mm×横:841mm、模造紙サイズ<1090mm×790mm>も可)
- ・ポスター貼り付け用の画鋏・テープ類は、大会実行委員会で準備いたしますので、それらをご使用ください。ご自身で用意されたテープなどは使わないようにしてください。
- ・発表用ポスターの撮影を禁止する場合は、発表者ご自身でその旨を掲示してください。

(発表者)

- ・発表者は質疑応答のため、26日(土)のコアタイム(12:00~13:00)に、ポスター前で待機し、質疑応答に立ってください。
- ・コアタイム以外は自由閲覧としますので、発表者がその場にいる必要はありません。

(後片付け)

- ・27(日)の12:30に各自ポスターを取り外して撤収を完了してください。
- ・撤収時間を過ぎて掲示されているポスターは、実行委員会で処分いたします。保管はいたしませんので、ご了承ください。

## 8. 自主課題研究発表について

- ・対面の会場設営および進行等の運営はすべて企画者側で行い、終了後は会場を元の状態に戻してください。
- ・代表者及びメンバーが責任をもって進行してください。
- ・終了時間は厳守をお願いします。

D21 講義室 自主課題研究①

質的研究法を学ぶ10 絵本を活用した実践研究における質的研究法を考える

C32 講義室 自主課題研究②

環境教育・ESD・SDGsと防災・減災・復興

## 9. 大会参加者向け企画

### ●学会企画

テーマ：「研究・実践者として歩み出す学会員の交流&ステップアップ！」(案)

日時：8月25日(金) 18:00~20:00

会場：鳥取県生涯学習センターふれあい会館

年次大会オンライン化以前に開催されていた論文の書き方セミナーや若手会員の集いといった企画アイデアを踏まえ、研究や実践に取り組み出した方やこれから論文を書きたいと考えている方の交流とステップアップの為の場を設けようと考えています。初めて本学会誌に投稿しようとしておられる方や論文投稿に興味を持つ方の参考となる本学会誌論文投稿状況や査読のポイント等の説明、また、各支部の活動状況や支部間での情報共有促進についての話題提供や意見交換といった時間を設けます。これからの研究・実践活動を広げていくための場として是非ご参加ください。

こんな方におすすめ

- ・今回初めて年次大会に参加した方
- ・研究・実践に取り組み始めて概ね10年未満の若手
- ・新たな学問領域やフィールドで活動しはじめられた方、または、そのための交流を求める方

※ 年齢などの制限は設けませんので、興味がおありならどなたでも参加いただけます。

18:00~18:20 趣旨説明と学会員に占める若手会員の現状について

18:20~18:40 初めての論文投稿へのガイド

18:40~19:00 各支部からの活動紹介

19:00~20:00 交流会

### ●英語報告部会

日時：8月27日(日) 9:00~11:00

会場：共通教育棟 D21 講義室

本大会では8月27日(日)の口頭発表内(9:00~11:00)に、すべてを英語によって進行する「英語報告部会」を設定します。発表形式は口頭発表と同様、口頭発表(対面・オンライン)・質疑応答・総合討論です。

英語で発表される参加者だけでなく、会員の皆様にも積極的に英語報告部会にご参加ください。詳しくは研究発表プログラム(p.23)をご覧ください。

オンラインの参加の方は、参加者に送られました ZOOM の ID とパスワードをご確認ください。



## ●国際交流会

日時：8月27日（日）11:00~12:30

会場：共通教育棟 D21 講義室

テーマ：日本環境教育学会（JSFEE）の国際交流のこれまで、これから

骨子：本学会の国際交流委員会の関わり、実績、課題って？事例紹介をもとに

対象：国際交流・国際共同研究に関心のある会員（研究者でも実践者でも）

事例・これまでの活動紹介を通じた国際共同研究、交流プロジェクトについて、国際交流委員との交流  
言語：日本語と英語

## ●国際共同研究会

日時：8月27日（日）12:30~14:30

会場：共通教育棟 D21 講義室

テーマ：JSFEE 環境教育国際共同研究プロジェクトの紹介

Overview of the JSFEE International Collaborative Research Projects (ICREP)

このセッションでは、2015年から着手した環境教育国際共同研究会のこれまでの歩みと今後の展開、その成果物であるアジアジャーナルの紹介を行います。

This session introduces the overview of the JSFEE International Collaborative Research Projects (ICREP) and the English-language online issue of the Japanese Journal of Environmental Education to explore the theme “environmental education in Asia.”

## ●研究会

日時：8月27日（日）12:30~14:30

会場：C31 講義室 研究会①

「公害教育」研究会／古里貴士（東海大学）

会場：C32 講義室 研究会②

「SDGsの教育」研究会／朝岡 幸彦（東京農工大学）

「原発事故後の福島を考える」研究会／石山 雄貴（鳥取大学）

会場：D31 講義室 研究会③

「環境教育プログラムの評価」研究会／中口 毅博（芝浦工業大学）

## ●会員懇談会

日時：8月26日（土）17:50~18:50

会場：A20 講義室

●懇親会

日時：8月26日（土）19:00～21:00

会場：大学生協（アエル）

## 10. 一般公開企画

### ●学会企画

テーマ：「子どもたちの気候変動学習を考える～地域での気候変動学習の現場から～」

日時：8月26日（土）13:30～15:00

会場：共通教育棟 A20 講義室

参加：当日受付（会員・非会員でも参加できます）

地域での気候変動学習の事例を、山陰の2つの地球温暖化防止活動センターから話題提供をいただき、参加者とともに気候変動学習の地域展開について、ワールドカフェスタイルで対話しています。

気候変動問題は、そのメカニズムの解説や個人ができる行動の呼びかけが多く見られるものの、環境教育の視点から、さまざまな専門家やセクターと通じ、社会変革に通じる人づくりが重要ととらえます。それは地域で取り組まれている環境学習の実践から見えてくるのではないかと。どんなアプローチや体験が望ましいか、その可能性について探っていきたいと思います。

<スケジュール>

- ・ごあいさつ、ガイダンス
- ・話題提供① 鳥取県センターの気候変動学習の実践
- ・話題提供② 島根県センターの気候変動学習の実践
- ・ワールドカフェ「地域での気候変動学習の特性とポイント」（20分×2回転）
- ・全体ふりかえりとまとめトーク

<協力・話題提供>

・鳥取県地球温暖化防止活動センター／気候変動適応センター  
ゼロカーボンとっとり

<https://www.t-ccca.org/>

・島根県地球温暖化防止活動センター エコサポしまね  
（公財）しまね自然と環境財団

<https://www.nature-sanbe.jp/eco/>

### ●公開シンポジウム

日時：8月26日（土）15:15～17:45

会場：A20 講義室

テーマ：おりてくるもの・つむぐもの

講演1：渡邊格・渡邊麻里子（タルマーリー）

講演2：林美帆（みずしま財団）

わたしたちが問題を認識しようとしなないのは、単にそれが複雑であるということだけではなく、わざと見避けているからではないでしょうか。環境教育は、まずはその不可視化されているものを意識化することから始めようとしてきたはずでした。知らずに遠くの誰かに、未来の誰かに、そして自分

自身に押し付けてきた負債を明るみに出すこと、それはむしろ肯定的な経験であること、そうした学習の契機を探りたいと思います。

2015年から鳥取県智頭町で、野生の菌だけを使って発酵させるパン屋「タルマーリー」を運営している渡邊格さんと渡邊麻里子さん。大会テーマの前半「おりてくるもの」は、地域の環境や家屋、そこで働く人々の影響を受けながら、麹菌がおりてくると表現されている言葉からいただきました。野生の菌とのかかわりから気付いたこと、パン作りが地域社会と環境への取り組みへと必然的につながっていることを教えていただきます。

大会テーマの後半「つむぐもの」は、みずしま財団の林美帆さんのキーワードでもあります。公害被害者と加害者の対話、公害という一見否定的な事象に新たな価値を見いだしていく過程をコーディネートされています。必ずしも調和的に進むわけではない公害地域の再生がいかにつむぎ出されていくのか、それを知ることはあらゆる環境問題の解決に向けてのヒントを与えてくれるでしょう。

## ●環境教育メッセ

日時：8月26日（土）9:00～18:30、27日（日）9:00～14:40

会場：共通教育棟 2階フロア

各団体の紹介・活動と大会参加者・学会員とのコミュニケーションの場としてご活用ください。

出展団体(五十音順)：朝倉書店、江府町役場、包み屋、農文協

- ・環境教育メッセ会場での火気使用はできません。
- ・販売に関しては、各団体の管理の下トラブルのないようお願いします。

## 11. 研究発表プログラム

### ●口頭発表（オンライン）

※登壇者（筆頭者）として登録された 1 名のみ氏名を掲載しています。

26 日（土）：9:00～9:55

会場	9:00～	9:15～	9:30～	9:45～
オンライン ①	[26G01] 高橋 彬 高等学校の復興教育における図書館活用の可能性 －岩手県立釜石高等学校の STEEL 教育に着目して－	[26G02] 栞原 智美 「都内高校生における野外炊事と環境意識から学習の可能性を探る」 －共生社会につながる視点を意識して－	[26G03] 飯沼 慶一 低学年未分化論から見た小学校低学年環境教育	総合 討論

26 日（土）：10:00～10:55

会場	10:00～	10:15～	10:30～	10:45～
オンライン ①	[26G04] 佐藤 秀樹 写真から観た環境問題の捉える視点に関する考察 ～バングラデシュの環境 NGO 職員を対象として～	[26G05] 斉藤 千映美 自然との関わりを学ぶ植物栽培－教員養成課程における授業改善の取り組み－	[26G06] 岡山 咲子 環境活動における学外の社会人とのやりとりが学生に与える意識変化と実務能力向上について	総合 討論

26 日（土）：11:00～11:55

会場	11:00～	11:15～	11:30～	11:45～
オンライン ①	[26G07] 渡部 聡子 ドイツの学校外教育における「包摂」の組織的推進	[26G08] 遠藤 晃 ユネスコ BR における ESD の実践研究 -ニホンカモシカに関するステークホルダーの協働-	[26G09] 長濱 和代 森と人とのつながりを取り戻す －森林資源の持続的利用の条件－	総合 討論

会場	11:00~	11:15~	11:30~	11:45~	12:00~
オンライン ②	[26H01]酒井佑輔 日本の環境教育に おけるパウロ・フレ イレー宇井純の語 りと自主講座「公害 原論」からー	[26H02]三木柚香 戦争と公害 その つながりと語りを めぐる一考察	[26H03]松井晋作 公害教育と自然保 護教育から見る日 本の環境意識	[26H04]若林身歌 ドイツにおける環 境教育学の視座に 関する研究	総合 討論

26日(土): 12:00~12:18

会場	12:00~	12:12~12:17
オンライン ①	[26G10]多田 満 社会対話「環境カフ ェ」の実践ー「気候 変動」をテーマにー	質疑応答

●口頭発表（対面）

※登壇者（筆頭者）として登録された 1 名のみ氏名を掲載しています。

26 日（土）：9:00～9:55

会場	テーマ	9:00～	9:15～	9:30～	9:45～
A 会場 C21 講義室	原発 事故	[26A01] 後藤 忍 福島県環境創造センター交流棟のリニューアル前後における展示説明文の内容分析	[26A02] 鈴木 隆弘 原発事故に関する取組みの検討 –教育系学会を中心にした資料の収集と予備考察–	[26A03] 鈴木 一正 福島原発事故における保養プログラム：コロナ禍の実態	総合 討論
B 会場 D21 講義室	教育 プログラム 1	[26B01] 桜井 良 ウェアラブルカメラ装着実験から考える環境教育プログラム評価の新たな可能性	[26B02] 冨田 俊幸 ESD 並びに SDGs の評価ツールの開発の検討	[26B03] 長原 未緒 フィールドワークにおける教育効果推定のための頭部方向検出に適したセンサ選定	総合 討論
C 会場 C31 講義室	学校 教育 1	[26C01] 王子杰 大人と子供の協働による家庭系食品ロス削減プログラムの開発 ～農業体験と日常的な食材・食事管理の組み合わせによる～	[26C02] 中村 和彦 小学校第 5 学年での森林学習の経験が中学校進学後の森林認識に及ぼす影響	[26C03] 許 容瑜 台湾における緑化木調査に関する学習活動の評価	総合 討論
D 会場 C32 講義室	幼児	[26D01] 藤井 徳子 幼児期の自然体験がもたらす教育効果について	[26D02] 田中 住幸 国内外の幼児期の環境教育・ESD の展開	[26D03] 加藤美由紀 外来生物についての幼児期の環境教育活動の実践	総合 討論
E 会場 D31 講義室	国際 交流	[26E01] 新堀 春輔 マレーシアにおける脱炭素社会実現に向けた環境教育・環境保全活動の実践	[26E02] 田村 憲司 二国間交流を通じた国際環境教育の推進	[26E03] 板倉 浩幸 国際交流を通じた日本の環境教育研究・実践者の学び — マレーシア Univertiti Tunku Abdul Rahman (UTAR: トウク・アブドゥール・ラーマン大学) とのオン	総合 討論

				ラインワークショップ を事例にー	
--	--	--	--	---------------------	--

26日(土): 10:00~10:55

会場	テーマ	10:00~	10:15~	10:30~	10:45~
A会場 C21 講義室	教材1	[26A04] 渡部 裕司 世界の環境問題と私たちのくらしのつながりを理解する教材の開発～ブラジルの熱帯林破壊を事例に	[26A05] 尾上 茉莉 畜産動物についての意思決定・合意形成を促すための理科教材開発に向けた予備的検討～採卵鶏のアニマルウェルフェアを中心に～	[26A06] 福井 智紀 ロールプレイ型市民陪審によりブラックバス駆除に関する意思決定・合意形成を支援する中学理科教材の開発	総合 討論
B会場 D21 講義室	教育 プログラム2	[26B04] 新井 雅晶 自然体験活動と創作活動を接続した環境学習の工夫	[26B05] 中山 孝志 企業対象の生物多様性・SDGs教育手法の開発と実施	[26B06] 甲田 紫乃 持続可能な社会に向けた地域文化の醸成に資する環境教育プログラムの開発と実践	総合 討論
C会場 C31 講義室	学校 教育2	[26C04] 張 馨キ 地域の持続可能性に資する中学校でのプログラム開発と評価 ー京都市京北地域における授業実践事例ー	[26C05] 竹本 裕之 中高生における他の生物へのポジショニングを通じた環境学習の試み: なりきり作文を用いた検討	[26C06] 森 朋子 中学校におけるシビック・アクション促進プログラムの実践と評価	総合 討論
D会場 C32 講義室	自然 体験	[26D04] 佐藤 健治 不登校支援教育における自然体験学習の課題 ー「川崎市子ども夢パーク」の成立と発展ー	[26D05] 孫 悦 コロナ禍における自治体連携型自然学校の対応特徴と課題 ーグリーンウッド自然体験活動センターを事例に	[26D06] 佐々木 啓 ビジターセンターの展示鑑賞による防災・観光・環境に関する意識の変化	総合 討論



E 会場 D31 講義室	地域 1	[26E04] 黄 璇 中国における市民科学の 実践が流域住民の環境 意識と行動に与える影 響の検討：貴州省貴陽 市の「双河長制」の実 施を通して	[26E05] 萩原 豪 温泉地から考える ESD 展開の可能性	[26E06] 陳 佳虹 ESD としての農山村女 性の学習運動—千野陽 一の研究を手がかりに —	総合 討論
--------------------	------	---	--	---	----------

26 日 (土) : 11:00~11:55

会場	テーマ	11:00~	11:15~	11:30~	11:45~
A 会場 C21 講義室	教材 2	[26A07] 樋口 昇 気体センサー活用によ る科学的な概念形成と SDGs 目標達成の関 係に関する研究	[26A08] 小野瀬剛志 保育者養成校におけ る小学生を対象とし た気候変動教育の教 材開発の試み	[26A09] 原 敬一 ミツバチ教材のポテ ンシャル	総合 討論
B 会場 D21 講義室	教育 プログラ ム 3	[26B07] 深澤 陸 森林散策において地 下足袋の着用がもた らす体験と認識の実 践的検討—足裏感覚 を強化した森林体験 プログラムの開発に 向けて—	[26B08] 笹野 仁美 市民性を育む体験的 な学びのあり方に 関する研究—学び手 の変容を促す要因の 分析を通して—	[26B09] 増田 直広 自然保育者養成にお ける自然体験活動指 導者養成講習会の意 義と課題	総合 討論
C 会場 C31 講義室	博物館	[26C07] 山本 理 SDGs 時代における 「地域づくり教育」拠 点としての博物館の 可能性について —博学連携を通した 学力形成への一考—	[26C08] 畑田 彩 環境教育と鑑賞教育 の融合—国連子ども 環境ポスターを活用 した環境教育	[26C09] 林 浩二 博物館と持続可能性 —国際博物館会議 (ICOM) の取り組み	総合 討論

D 会場 C32 講義室	動物	[26D07] 大森 和樹 デューイの思想から 考える動物園・水族館 の教育的意義	[26D08] 高橋 正弘 対馬市における希少 野生生物保護を目的 とした環境教育の効 果および課題の分析	[26D09] 本田 裕子 コウノトリ学習の教 育効果を検討するー 兵庫県豊岡市「ふるさ と教育」の事例から	総合 討論
E 会場 D31 講義室	地域 2	[26E07] 浜 泰一 南大東島におけるス ケッチ・マップ の作成	[26E08] 大島 順子 世界自然遺産地域に おける気候変動教育： 地域住民への普及・啓 発の取組み	[26E09] 今宮 則子 子どもたちによる社 会への働きかけを目 指した環境教育実践 ～西表島とニューヨ ークの小学校の交流 を軸にして～	総合 討論

27日(日)：9:00～9:55

会場	テーマ	9:00～	9:15～	9:30～	9:45～
A 会場 C21 講義室	教材 3	[27A01] 田開寛太郎 環境教育の目的に適 合したVR教材の開発 と実践に向けて	[27A02] 原 理史 デジタルアースを活 用した地域環境 ESD の実践	[27A03] 森元 真理 生き物と暮らしをつなぐ 絵本教材のデザイン	総合 討論
B 会場 D21 講義室	英語報告部会（詳細は p.26）				
C 会場 C31 講義室	自然観 1	[27C01] 李 婉 森林環境教育に対す る日本と中国の住民 意識に関する考察	[27C02] 内藤 光里 京都市における脱炭 素ライフスタイル行 動の実態と行動変容 の阻害要因	[27C03] 藤岡 達也 SDGs の観点からみた鳥 取県の自然災害と自然景 観	総合 討論

D 会場 C32 講義室	奨励賞審査（詳細は p.27）				
E 会場 D31 講義室	思想・ 理論 1	[27E01] 新田 和宏 共通だが共有されて いない環境教育の課 題	[27E02] 西村 仁志 インタープリテーシ ョンの現代的意義	[27E03] 斉藤 雅洋 ESD としての防災教育 の原理的考察（その2）	総合 討論

27 日（日）：10:00～10:55

会場	テーマ	10:00～	10:15～	10:30～	10:45～
A 会場 C21 講義室	教育 実践		[27A05] 松田 剛史 「環境配慮を意図し た生活スタイルを提 案する学生プロジェ クトの実践」	[27A06] 福田 美紀 持続可能な開発目標 （SDGs）実施プロセ スにおけるユースの 参画：フィンランドと 日本の比較研究	総合 討論
B 会場 D21 講義室	英語報告部会（詳細は p.26）				

C 会場 C31 講義室	自然観 2	[27C04] William R. Stevenson III ガーデン・ベースド・ラーニングと日本の大学生における自然意識	[27C05] 大塚 啓太 自然への愛着感は大学進学先選択に影響するか? --都市/地方進学直後の大学1年生への心理調査より--	[27C06] 芳賀 普隆 環境保全に関する大学生の学びにおける学生の意識に関する考察―「地域プロジェクト活動」の事例―	総合 討論
D 会場 C32 講義室	奨励賞審査 (詳細は p.27)				
E 会場 D31 講義室	思想・ 理論 2	[27E04] 東 照晃 公害教育 (環境教育) と同和教育 (人権教育) の共通性とその課題	[27E05] 溝田 浩二 モンsoonアジアの風土を生かした環境教育―100年前の日本人の暮らしを求めてラオスを歩く	[27E06] 秦 範子 脱成長を実現する<再ローカリゼーション>とは: アグロエコロジーを事例に	総合 討論

●口頭発表（英語報告部会）

※登壇者（筆頭者）として登録された 1 名のみ氏名を掲載しています。

27 日（日）：9:00～11:00

会場	9:00～	9:15～	9:30～	9:45～
B 会場 D21 講義室	[27B01] ZHANG Gegenduoren Comparative Study on School and Community Education from the Perspective of Sustainable Development Education --Case study in Inner Mongolia, China and Japan	[27B02] Hancheng You Study of Factors Promoting Pro- Environmental Behavior in a Private University Student in Japan	[27B03] Hyun Kim Addressing Carbon Neutrality In Environmental Education of Korea	総合 討論

会場	10:00～	10:15～	10:30～	10:45～
B 会場 D21 講義室	[27B04] Tseng, Yu-Chi An exploratory study of the influential socially significant life experiences on school teachers' teaching behaviors in environmental education	[27B05] Sachi Ninomiya-Lim Exploring the “Japanese Model” of Environmental Education – Based on the Virtual Workshops for Malaysian Early Childhood Educators	[27B06] Jeonghoon KIM Reviewing the Model Schools for Carbon Neutrality in Korea with Whole School Approach perspective	総合 討論

●口頭発表（奨励賞審査）

27日（日）：9:00～12:00

会場	9:00～	9:05～	9:22～	9:39～	9:56～
D会場 C32 講義室	会長 挨拶	[27D01] 河村 幸子 動物福祉を考慮した学校飼育動物を支える地域ボランティアの可能性～ヤギがつなげるまちづくり～	[27D02] 安嶋 汰粋 メディア論から考える動物園・水族館のライブ性	[27D03] 尾辻 朋音 展示閲覧前の情報提供が水族館来訪者の行動や展示理解に及ぼす影響—信濃川の生物展示における検証—	[27D04] 高橋 宏之 国際的にはじめての動物園における保全教育戦略構築に関する実践

10:30～	10:47～	11:04～	11:21～	11:38～
[27D05] 矢野 沙帆 ゲーミフィケーションを適用したSDGs 行動を促す幼児期 ESD 教育プログラムの開発および効果の検証	[27D06] 宇都宮 俊星 探究活動の導入に焦点を当てた討論型理科教材の開発と実践—海洋酸性化を題材とした意思決定・合意形成の支援—	[27D07] 浅岡 永理 単独自治体型ユネスコエコパークにおける ESD の促進要因	[27D08] 山田 輝 官民の資料館による公害教育の展開—新潟県阿賀野川地域を事例として—	[27D09] 川尻 剛士 「不可視性」に對峙する公害経験継承はいかにして可能か

※口頭発表（奨励賞審査）は、発表12分、質疑5分で進行します。

●ポスター発表

26日(土)9:00~15:00(コアタイム12:00~13:00) 27日(日)9:00~12:30

※登壇者(筆頭者)として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

<ポスター会場①:スタディールーム1>

- P1 ~~Li-Hsuan Liao: The Influence of Climate Change Risk Perception, Self-efficacy and Psychological Adaptation on Intention of climate action among adults in Taiwan.~~ ~~キャンセル~~
- P2 Mi-Wha Jang: Research on Interdisciplinary Educational Program Development: Based on Ecological Sensitivity and Caring Thinking
- P3 二井 菜月: 大学生の身近な動物に対する関心・意欲と関わり方の許容範囲
- P4 長島 優斗: 大学生の放置竹林問題に関する知識・経験・関心の状況
- P5 石岡 夢葵: 身近なムシに対する好きと嫌いの印象と関わり方の許容範囲
- P6 大西 春帆: 木育教室「丈夫で、津波に強い木は、重い木と軽い木のどっち?」の開発・実施・評価
- P7 藏田 大和: 木育教室「重い木と軽い木で鍵盤を作った木琴は、どのように音が違うのか?」の開発・実施・評価
- P8 洪 筱筑: 環境アイデンティティ、自己効力感と持続可能な消費に関する関連性—台湾大学生のサステナブルファッションな衣料品の購入と保存について

<ポスター会場②:スタディールーム2>

- P9 田村 和之: 徳島県における海浜漂着ごみ
- P10 田中 美帆: 海洋ゴミを用いたワークショップ形式の海洋教育—KJ法による分析結果—
- P11 堀江 慧悟: 三重県鳥羽市の全小中学校を対象とした海洋教育プログラムの実施とアンケート調査
- P12 高橋 一秋: 海岸防災林ジオラマ教材の開発・実施・評価—樹木の根の形状と津波に対する耐性の関係を学ぶ—
- P13 佐藤 幹太: 身近な絶滅危惧の淡水魚に対する地域住民の価値観とそれに影響を及ぼす要因 岡山市アユモドキを事例として
- P14 永野 昌博: 市民協働による生物多様性データベースの開発
- P15 池田 珠美: 見える化した共有方法による更なる環境配慮行動促進の可能性
- P16 井村 礼恵: 保育学生が考える乳幼児対象SDGs教育について  
~東京ディズニーランドにおける「多様性」の事例から~
- P17 梶浦 恭子: 保育者、教員養成におけるかがく絵本を教材にした自然とのかかわり

<ポスター会場③: D22 講義室>

- P18 安富 勇希: 外国籍市民の社会参画を促す要因とは—浜松市のブラジル籍市民を対象としたインタビュー調査—
- P19 丸本 倍美: 公害発生地域の小学生に対する水銀に関するアウトリーチ活動
- P20 山下 由貴: 環境教育のための草木染の活用—外来植物を用いた経木染色の可能性—

- P21 西村 和代：学校教育を再生するための「エディブル・エデュケーション」と環境教育の関連  
公立小学校における食育菜園の事例を通して"
- P22 熊谷 豊：自然の中での「体験型」の学び前後における意識変容の調査概要報告
- P23 安藤 匡哉：武田薬品「京都薬用植物園」の重点取組と今後の展望
- P24 岡部 龍登：漫画手法を取り入れた展示による生物多様性保全意識向上の試み
- P25 小泉 伸夫：マダニ由来感染症を疑似体験するボードゲームの開発
- P26 倉田 薫子：少年院における生物多様性教育の実践